

「チャレンジする中小企業アシストする中小企業診断士」

診断かがわ

2011年 新年号 NO. 56号

(平成23年1月15日発行)

[主要目次]

- ◆ 山下支部長 年頭の所感・・・・・・・・・・ 1
- ◆ 四国ブロック事務連絡会議報告・・・・ 2
- ◆ 理論政策更新研修報告・・・・・・・・・・ 3
- ◆ TOG/CCPM インプリメンターコース
研修会報告・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ◆ 第1回支部研修報告・・・・・・・・・・・・ 7
- ◆ 岡山・香川県支部合同研修会報告・・・・ 8
- ◆ 経営コンサルタント養成講座報告・・・・ 9
- ◆ 中小企業経営診断シンポジウム
参加報告・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ◆ 新入会員自己紹介・・・・・・・・・・・・ 18
- ◆ 会員だより・・・・・・・・・・・・・・ 21
- ◆ 調査・研究事業 公開セミナー
のご案内・・・・・・・・・・・・・・ 23



瀬戸内国際芸術祭 2010

社団法人中小企業診断協会香川県支部

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402号

TEL 087-840-0370 FAX 087-840-0321

発行人	支部長	山下	益明
編集人	広報部	梅澤	秀樹
〃	〃	立川	敦史
〃	〃	小島	仁



年頭の所感

社団法人中小企業診断協会香川県支部
支部長 山下 益明

新年明けましておめでとうございます。平素は支部活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、昨年末に発表された「2011年の景気見通しに対する企業の意識調査」(帝国データバンク)によりますと、2010年の景気動向について「悪化」37.6%、「踊り場」45.5%との回答でした。2009年よりは若干「悪化」のポイントが減少したものの、2010年は多くの企業で景気底入れの実感が乏しい年であったことがうかがえます。

また2011年の景気見通しでは、「回復」を見込む企業は1割弱にとどまっています。規模別に割合をみると大企業9.4%、中小企業9.2%と大差ありません。その一方、「悪化」の割合は大企業29.4%、中小企業35.3%と、中小企業が高い結果となりました。とくに「小規模企業」では40.4%が「悪化」と回答し、規模の小さい企業ほど2011年も厳しい経済状態が続くと予想しています。

2011年は、私たちの主なお客さまである中小企業にとって、閉塞する現状を打開するビジネスチャンスをとらえようとする意思が強まる年になると推察されます。つまり、それをお手伝いする、私たち診断士の出番です。

企業が景気回復の兆しをつかみとるためにも、ご支援する私たちは単なる経営診断・助言に終わらず、自ら率先垂範の姿勢で、経営者とともに経営革新に取り組むことが肝要と考えます。

話は変わり香川県支部の近況について、2010年はいろいろな意味で「交流」の年でした。毎年恒例の「岡山・香川県支部合同研修会」はもちろんですが、今年は愛媛県支部会員との交流も頻繁にありました。例えば愛媛県支部ご来県の際、高松での会員同士の交流会開催など。

このように瀬戸内海を囲んだ近県がより深く交流を重ね、情報交換を密に行ったことは、今後の各県の組織運営にも好影響をもたらすものと思われまます。

…と申しますのも、皆さまお聞き及びのことと存じますが、公益法人制度改革にともなう診断協会の組織変更の方向性が、ほぼ確定してまいりました。各県支部は、地域の特性を活かす地域中小企業のための支援組織として、地域での法人格の取得が不可欠…という考え方にに基づき、各県での独立となる見込みなのです。

詳細につきましては今後、中小企業庁との密接な協力のもと検討を行い、会員の皆さまのご了承を得て具体化する運びとなっております。実際に法人化等の動きが本格スタートするのは、4月以降になる予定です。香川県支部も、これまで培ってきた他県との交流の輪を活かして情報交換を行い、より魅力のある法人として組織を整えてまいる所存です。

引き続き、会員の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが皆さま方のますますのご健勝と、さらなるご活躍を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

四国ブロック事務連絡会議報告

社団法人中小企業診断協会香川県支部
副支部長 村上 潔

社団法人中小企業診断協会の四国ブロック事務連絡会議が、今回は愛媛県支部の担当で、松山市道後温泉の大和屋にて、平成22年11月2日に開催されました。本部から新井信裕会長、水元明則専務理事、小沢一英会員事業部長の3名をお迎えして開催されました。四国四県の各県支部から、支部長および副支部長と事務局等の合計10名が参加し行われました。当支部からは山下支部長、私と八木さんの3名が参加しました。

まず新井会長から挨拶があり、事業仕分を含めた診断協会を取り巻く、最近の環境変化等についての説明がありました。その後水元専務理事から、今回の公益法人の当協会の一般社団法人への移行について、平成24年4月を目途に実施するに当たりその課題と問題点について、またそれに伴うタイムスケジュール等についての経過説明がありました。現在当協会の管轄省庁であります経済産業省と、内閣府との調整の厳しさについての説明がありました。基本的には、各県支部が一般社団法人として独立し設立登記し、現在の診断協会が各県支部を統括する連合会方式とする案が、有力であるとのことでした。今後会員の皆様も、本部からのこの件についての説明等に注意をしてください。

次に本部に対して、各出席者からの要望事項および質疑応答がありました。とくに当香川県支部の山下支部長よりの提案として、本部機能としての各県支部との交流と連携の推進と、研修の強化等についての要望が出されました。その後愛媛県支部の数名の会員も参加して、懇親会があり散会しました。



■出席者のみなさん

平成 22 年度理論政策更新研修報告

社団法人中小企業診断協会香川県支部
理事 梅澤 秀樹

今回の理論政策更新研修は平成 22 年 9 月 4 日（土）に、例年と違って高松商工会議所の大会議場で開催されました。

従来は一般の会議室を使用していましたが、年々参加される人数が増加し、収容し切れなかったことと、同じ研修を開催するのであれば、参加者の先生方にゆったりとした雰囲気の中で、十分な勉強をしていただきたいとの考えからでした。

今回も 3 部構成で、テーマは①新しい中小企業施策について②農業経営支援について③地球温暖化の中小企業への影響とその対策について、というように最新の中小企業施策と最近特に見直されてきている農業分野について、それに香川県支部が取り組んできた研究テーマについての解説となりました。

①新しい中小企業施策について 講師 四国経済産業局中小企業課長 西川 裕泰氏

日本経済は輸出・生産に明るさが見られ、これまで実施されてきた景気刺激策の効果により景気回復も期待される状況ですが、刺激策の剥落による景気の失速が懸念される状況にあります。

特に当香川県では大きな輸出産業もなく、景気回復の実感は感じられません。

このような中で、新たな中小企業の成長の場を指し示す新しい中小企業施策について、詳細なデータを基に政府としての重点分野についての説明がありました。

我々としては、これらの施策を十分に理解し、県下の中小企業の経営アドバイスに活用していきたいと考えております。

②農業経営支援について 講師 村上潔氏

政府の新成長戦略に農業分野の重点的な取り組みがありますが、我々中小企業診断士にとっては、やや馴染みの薄い分野です。村上先生におかれては農業分野に着目し、早い段階での取り組みをされ、農業分野でのアドバイスを行なわれております。

今回は実際に取り組みされた事例を基に決算書の見方などの詳しい説明をいただきました。これをキッカケに、我々も古くて新しい分野を勉強していく必要があると痛感いたしました。

③地球温暖化の中小企業への影響とその対策 講師 小島 仁氏

地球的環境保全のため地球温暖化に取り組んでいる企業が増加しておりますが、香川県内の企業における環境問題への取り組みに関する調査研究報告の解説として、県内での取り組み企業 9 企業（葵機工株式会社様、株式会社アムロン様、株式会社イー・アンド・エー様、オリエンタルモーター株式会社様、株式会社香川銀行様、株式会社シーマイクロ様、

REGISTERED MANAGEMENT CONSULTANT REPORT

伸興電線様、新日本印刷株式会社様、有限会社ユーキ美装工業様) について、企業としての取り組みにいたった経緯から、今後の展望についてまで詳しい説明がありました。各企業ともに環境問題に対する深い造詣があり、真摯な取り組みの説明がありました。

このような事例を踏まえ、我々の経営アドバイスを実施していきたいと思ひます。



■大会議場で開催



■村上氏より農業経営支援について



■小島氏より香川県内の中小企業における
環境問題への取り組みに関する調査研究
について

TOC/CCPMインプリメンターコース研修会報告

社団法人中小企業診断協会香川県支部
長尾 直樹

去る7月24日(土)および25日(日)、休暇村讃岐五色台において「TOC/CCPMインプリメンターコース研修」が開催されました。TOC(制約条件の理論)およびCCPM(クリテikalチェーンプロジェクトマネジメント)は「ザ・ゴール」等の著書でおなじみですが、既に自社に導入され確実に成果を上げていらっしゃる株式会社五星様より講師をお迎えしました。受講生は香川県支部6名、愛媛県支部1名の有志が集まり、2日間の集中合宿形式での有意義な研修となりました。当日は天気はたいへん恵まれ、香川県の平地部分より2~3度は気温が低いであろう快適な五色台とあって、受講生は日常とは違う雰囲気の中セミナーに臨みました。

【1日目:7月24日(土) 10:00~18:00】

株式会社五星、マネジメントソリューショングループ豊浦淳一郎様より、プロジェクトの問題点、TOCの概論について午前中に講義いただきました。午後からは同グループ赤松邦彦様よりシミュレーションダイスゲームという、サイコロを使ってTOCの問題点を認識するゲームを教えてくださいました。プロジェクトマネジメントの実態および一般的予想を覆す結果に受講生一同「お〜っ!」と感動しました。その後、豊浦様よりCCPM概論について講義いただき、同社副社長神原様、山下支部長と共に懇親会へと突入しました。和やかな雰囲気の中、あっという間に夜も更けていきました。

【2日目:7月25日(日) 9:00~16:00】

朝一番、神原副社長から「五星での導入事例」と題して、実体験に基づく講義をいただきました。なぜか一同頭が痛そう(?)な中、東京でも行列をなすというその講義には、副社長の話術も相まっていつの間にか引き込まれていました。その後、マルチタスク体感ゲームというプロジェクトの掛け持ち作業の弊害を体感するゲームを行いました。午後からは、CCPM実践編の講義の後、当支部で現在進行中の「平成22年度調査・研究事業」を題材として、実際にCCPM対応のソフトウェアを用いてプロジェクト計画を作成しました。実際に自身で作業を行うことで、CCPMのイメージがつかめました。

この2日間をふり返ってみると、いままで概念的にしか理解していなかったTOC/CCPMについて、ゲームや実作業を交えてご講義いただき、私でも基礎が理解できたと実感しました。今後の活動に活かすことのできる実践的なセミナーだったと思います。充実感を持って五色台を下山し、帰路につきました。神原副社長をはじめ豊浦様、赤松様、大変お忙しい中、土日のフルタイムでご講義いただき大変ありがとうございました。

REGISTERED MANAGEMENT CONSULTANT REPORT



■ シミュレーションダイスゲームに
取り組む参加メンバー



■ 神原副社長より「五星での導入事例」を
発表いただきました



■ ソフトウェアを用いてプロジェクト計画
を作成中・・・

第1回支部研修報告

社団法人中小企業診断協会香川県支部
理事 川上 実

- 日時：2010年8月7日（土）15：00～17：00
- 場所：サンポート高松シンボルタワー17階オフィスサポートセンター会議室 A3
- 司会：笠居 昭司氏（香川県支部理事）
- テーマ：「民間受注獲得に向けた意見交換会」
- 参加人数：11人（会員外の参加者1名含む）

1. 研修の主旨

昨年度は「地域力連携拠点事業」が事業仕分けの対象となり、今年度、またもや「中小企業応援センター事業」が“看板の架け替え”との理由で事業仕分けの対象となりました。

これまで、公的機関からの受注は比較的安定性が高いようなところもありました。しかし、昨今では中小企業支援予算の縮減による施策の変更や規模縮小など、支援施策が年度ごとに変わるといった状況にもなっています。

一方、民間からの受注については、今後伸ばしていかなければならないことはわかっていながら、そのチャネルの確立ができていない診断士が私も含めて多いことも事実です。

このような状況を踏まえ、民間からの受注をいかに獲得していけばよいのかについて、笠居理事の司会のもと意見交換をしました。

2. 意見交換の内容

診断士をとり巻く環境についての意見交換が主な内容となりました。民間受注における環境認識としては、次の事項があげられました。

- 銀行の診断士に対するニーズが高まっている。
- コンサルティングをうける必要性の認識は高まりつつあるものの、コンサルティングをうけた経験がない企業が多い。
- 企業のコンサルティングニーズは次のものが考えられる。
 - 自社の課題の整理・構造化 → 中期経営計画の策定
 - 事業承継 → 後継者教育、後継体制づくり
 - 新規事業開発
 - 生産性の向上 → 人事フレームの見直し、生産管理（5S、工程管理、原価管理）
- 診断士の知名度がやはり低い。 など

3. 意見交換会の感想

私自身、今まで比較的恵まれた環境の中で活動をしていたため、それに甘えていたことは事実です。今後の対応として、なにより民間受注ができるに値する“商品の開発”が最優先課題であることを改めて気付かされました。

平成 22 年度岡山・香川県支部合同研修会報告



社団法人 中小企業診断協会 香川県支部
中井 由郎

去る 10 月 17 日（日）、毎年恒例の「岡山・香川県支部合同研修会」が開催されました。両支部会員の交流を図ることにより、お互いに刺激を受け、業務などでの連携を生み出す機会として開催されました。また、今回は中小企業診断士としての考えや行動を自分達で見つめ直し、今後の活動に活かそうという趣旨で、グループディスカッション形式の研修となりました。

最初に、日本ファシリテーション協会でも活動されている、香川県支部の浮田診断士より、ファシリテーションとディスカッションの進め方について説明をしていただきました。

次に、最近開業した診断士 2 名から、開業時の苦労や現在の活動についてお話をいただきました。先に岡山県支部の安藤診断士から、開業時の営業とセミナーに特化した活動についてお話いただきました。相手に印象を残すため、似顔絵付の名刺を作成し、県内すべての商工会を周ることで、受注につなげた成功談を聞きました。また、クレーム対応という自身の経験を活かした分野をつくるとともに、セミナーに特化する活動を聞きました。業種や業務での特化は知っていましたが、セミナー活動に特化するという発想は、新たな切り口で驚きました。

香川県支部からは小島診断士が、本人の思う失敗談と、そこから学んだことを聞かせていただきました。社長にコンサルタント契約を提案したが、社内での合意が得られず、受注にならなかった事例をお話されました。この事例から、社長の意思をはっきり後押しできなかったという反省点を分析されていました。また、最後の質問で、「今なら受注できると思いますか」という質問に対して、「できる」と答える姿に、開業診断士の自信と力強さを感じました。

その後、6 名ずつ企業内診断士と開業診断士で分かれ、グループディスカッションを行いました。テーマは企業内診断士が「診断士の資格を、企業内でどのように活かすか」で、開業診断士が「これからの開業診断士の成功要因を探る」と、それぞれ異なるテーマで議論を行いました。

企業内診断士からは、知識の習得や経営者感覚を持つ人材育成という社内向けの活かし方と、取引先へのアドバイスといった社外向けの活かし方を発表いただきました。開業診断士は、専門分野の確立やネットワークの構築といった、実務と受注につなげる分野の強化が成功要因になるという意見が多かったです。

今回は日曜日に開催されたため、企業内診断士も参加しやすく、多くの会員が集まることができました。全体進行をしていただいた浮田診断士と発表された方々、ありがとうございました。また、岡山から来ていただいた皆様もありがとうございました。来年以降も引き続き開催されることを期待しております。

「経営コンサルタント養成講座」に参加して

社団法人中小企業診断協会福岡県支部
熊本 保弘

香川県支部のみなさま。こんにちは。

香川県支部・岩倉先生のご紹介で、本講座に参加させていただいた福岡県支部の熊本と申します。

本講座では、はるか東京も含め、四国中、岡山からも集まれ、九州から参加させていただいたおかげで、個性豊かな人々の中で充実した3日間を過ごさせていただきました。

またこの度は、香川県支部・小島さんのおかげで「診断かがわ」に投稿する機会をいただきましたので、私の講座全体を通しての所感と雑感、そして「何を学んだか」を述べてみたいと思います。

この3日間の合宿講座は、全体網羅的なコンサル基本知識の大切さ、コンサル・スキルに加えて営業スキルの大切さ、伝わるプレゼンテーションの大切さを教わり、「原点に帰る」ことを学び、また参加されたみなさまとの交流に、互いに刺激し合った3日間でした。

会場は、初めて臨む瀬戸内の海と島々、自然と人工物の調和の架け橋「本四架橋」のパノラマの中、紅葉を望める休暇村「讃岐五色台」を舞台に3日間の講座が開催されました。

参加する前の印象としては、講座のテーマ内容に期待しつつも、正直、四国へ出かけてどれぐらいインプットがあるのかなあという思いはありましたが、初日を終わってその不安感はなくなりました。

福岡から高松への移動は、都合もあって、講座前日の午後11時に高松着。

香川といえば、「讃岐うどん」。九州まで遥か名声は伝わり、東京の企業なのに本場「讃岐うどん」をうたっている「はなまる」が展開されています。でも本場は本場。さっそく、讃岐うどん探訪へ出かけ、事前に調べた「カレーうどん」で有名な店で舌づつみ。本場「讃岐うどん」のおいしさを堪能しました。

コンサル講座初日は、「経営コンサルタントのコンサル・スキル、知識」として「経営診断の網羅的基本と進め方」で、ここでは基本、全体感、網羅感の大切さを学びました。

2日目は朝8時半～18時までのハードな一日でしたが、「経営コンサルタントの営業活動」に関して「売れるしくみづくり」の大切さを。その中でコンサルタントのフィー単価が「役立ち度」、コンサルタントの稼働時間が「人気度」を表わすとの説明に印象が残り、「企業」の「お客様」は「商品やサービスの購入者」であるが、「経営コンサルタント」の「お客様」は「クライアント」であることを再認識、「役立ち度」「人気度」を高めるためには「クライアント」の「ニーズ」「調和」「成長」に答えることかなと考えました。

さらに、独立診断士としてやっていくための留意点や心構え、ミッション、アウトプットを出すための前提となる視点、日頃の周辺知識や情報収集の重要性、理想も大切だが現

REGISTERED MANAGEMENT CONSULTANT REPORT

実も見せること、受注の努力、提案力の必要性等々を学び、コンサルタントに要求されることを教えていただきました。まだまだ自分の経験、認識、知識の少なさを感じました。

初日、2日目とも座学だけでなく、実地練習や発表、グループ討議の時間も準備され、受け身だけにならない配慮をいただき、ヒアリング構成、コミュニケーション力、質問対応力、段取り、役割分担、まとめ力を学びました。

3日目は、コンサルタントがアウトプットするために必要な伝える力、「プレゼンテーション力」を高める講座でした。今までは「伝えるため」に「ことば」と「資料」でいかに伝えるかしか考えていませんでしたが、口で伝え、目で訴え、体で注視してもらうことを覚え、アイ・コンタクトやアクション、発声の表現力での発信テクニックをインプットしました。訓練のおかげでいつの間にか何のてらいもなく、体でアクションしている自分を発見し、一皮むけたことが収穫でした。この講座は形式がロールプレイング形式だったため、プレゼンテーションにみなさんの個性が感じられました。

講座の間は、参加のみなさんと一緒に朝、昼、夕の3食、その後の懇親会と親睦を深める交流の場をいただきました。部分参加の方も含めて、みなさんの社会経験、仕事や知識、個性を語っていただき、私の人生観、仕事観、診断士観、人間観にインプットされました。

特に、懇親会は和室の布団の狭間に酒、つまみを準備した食卓を置き、参加者各人の思いを気ままに語り合いました。用意された「栗の焼酎」が珍しかったです。自分でも買おうと思いながら銘柄を忘れてしまいましたが・・・。一日の終わりは大浴場でどたばたのお風呂。温泉でないのがちょっとさびしかったです。そして、和室で雑魚寝で、久しぶりの合宿気分を味わいました。

以上、講座から得られたものと3日間の様子です。

今回の合宿講座で印象深かったのは、山下支部長と、共に参加された社会保険労務士の奥様とのコンビ・ワークです。山下支部長が講座の全体進行を見守られ、講座に参加されながらも支部長との「あうん」の呼吸で、状況に応じて必要な処置をされていた奥様。しっかりと「内助の功」を感じた3日間でした。

この3日間の収穫は、基本、原則、全体網羅感、そしてコンサル・スキルだけでなく営業力の大切さ等々。「基本」、「原点」に帰らねばと感じた3日間でした。

最後は、講座に参加された方といっしょに、高松駅前最後の「讃岐うどん」。また「讃岐うどん」をおみやげに、「讃岐うどん」で閉めた3日間でした。

参加された講師の方、手配いただいた支部の方、そして講座参加のみなさん、3日間ありがとうございました。

「経営コンサルタント養成講座」に参加して

社団法人中小企業診断協会愛媛県支部

向井 重樹

いつもお世話になっております。この度は、香川県支部の「第3回経営コンサルタント養成講座」に参加させていただき、誠にありがとうございました。

講師の藤川先生、山下支部長、岩倉先生、三神先生には、本当に感謝しております。貴重なノウハウ満載で「来て良かった!」と実感しました。そして、講座に参加した皆様(12人)との連帯感や熱い思いも大変刺激になりました。どうもありがとうございました。

私は大学を卒業後、ゼネコン、ノンバンク、愛媛の産廃会社に勤めて、平成22年6月に独立開業しました。現在50歳です。診断士を取ったのは愛媛の会社時代(平成20年)で、経歴を見ると…、少し変わり者かも知れません。

このような私ですので、根拠のない自信のもと、運と流れで独立しました。したがって、独立してから経営コンサルのスキルが低いことに気づき「やばいっ!」となりました。

そんな時、香川県から救いの手が…。愛媛県支部の研修旅行の懇親会で山下支部長をはじめ支部の皆様にお世話になったご縁で、香川県支部の研修に参加させていただけるようになりました。そして平成22年の集大成がこの「経営コンサルタント養成講座」でした。

今回の養成講座は、3日間。案内には「プロの経営コンサルタントとして自立するための実践的なスキルの習得を目的」と書かれています。正に私のための講座です。しかし、合宿のようで何となく3Kの匂いがします。厳しいのかな、ついていけるかな、期待よりも不安でいっぱいでした。ここで登場するのが小島先生です。いつもながらのしなやかさで「向井さん、絶対良い講座だから参加しましょう」と背中を押してくださいました。

実際に参加してみると、山あり谷ありでしたが、大変有意義な3日間でした。これまでよく分からなかった、経営コンサルタントとしての立ち位置のことや疑問点(どのようなスタンスで営業活動をするのか、ツールは、切り口は、セミナーや講師の形は)が、ほぼ解決されました。そして、自分に足りないことがたくさんあることも、反省すべきことも概ね整理できました。先輩の先生方にとっては些細なことでも、私にとっては、喉に刺さった小骨のような、モヤモヤしたものがあつたのですが、スーと薄れていきました。

また、講座では自分のことを他の人がどのように見ているか、というパートもあり、自身が思っていたのと違うことも少なからずあつたのが新鮮でした。付け加えると、参加したみなさんの人柄の良さもわかりました。

そして何より大事なのは、この講座で習得した内容を自分なりに理解して実行しなければ意味がない、ということです。私は基本の部分からですが、実行に移していく所存です。

最後に、この講座は1回の参加だけではもったいないと考えています。ノウハウの奥が深く、置かれた立場より感じるものが違うと思います。私は来年もぜひ参加させていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

REGISTERED MANAGEMENT CONSULTANT REPORT



■ 初日の藤川先生による講義



■ 3日目の三神先生による講義



■ 全員の前で発表する向井氏

中小企業経営診断シンポジウム参加報告

社団法人中小企業診断協会香川県支部
多田 やす子

- 日時：平成 22 年 11 月 17 日（水）10：30～17:30
- 会場：東京ガーデンパレス
- 主催：社団法人中小企業診断協会
- 参加内容：第 1 部 基調講演 後継者は経営者の背中を見て育つ 講師：宗次徳二氏
第 2 部 第 2 分科会 診断協会各支部による調査・研究／地域施策提言
／入選者発表
 1. 平成 21 年度「調査・研究事業」“激動の時代を生き抜くものづくり中小企業”の
知恵的資産経営調査報告書／東京支部
 2. 「中小企業の「ISO22000(食品安全マネジメント)入門」／岡山県支部
 3. 「浜名湖観光圏」における農商工連携による果樹園経営の一方策について／静岡県支部
 4. ワーク・ライフ・バランス導入推進ガイドブック作成にかかる研究報告／東京支部
 5. 中小企業の海外取引拡大の為の支援について（販路開拓からパートナーシップの構築～
／東京支部
 6. 「おとなの道草」キャンペーン ～途中下車客増加による商店街活性化作戦～／東京
支部

1. 第 1 部 (10：30～12：00) 基調講演 テーマ：後継者は経営者の背中を見て育つ
講師：壺番屋 創業者特別顧問 宗次徳二氏

国内最大手のカレーチェーン店「CoCo 壺番屋」を創業した宗次氏が、創業から 20 年間増収増益に導いた成功の秘訣を、生い立ちから現在に至るまでの経緯を通して情熱的にご講演されていました。

サービス業を成功させている経営者が大切にしている共通点をあげると、「掃除と早起き」をよく耳にしますが、宗次氏も例外にもれず、1 日も休まず実行されていました。毎日コツコツとひたむきに朝早く起きて、掃除をするという実直さが、真心を持ってお客様に接するという基本姿勢に反映され、お客様の心に響いているのだと気づかされました。いろいろな経営手法はあるものの、真心に対抗できるものはない。努力も継続することが、人との差別化なんだということをお話されていました。口でいうのは簡単ですが、なかなか毎日 1 日も休まずに実行するのは並大抵のものではなく、その率先垂範な姿勢が、顧客や社員の心に届き現在の「CoCo 壺番屋」があるのだと思います。私も若輩者ながら、宗次氏の、貴重なご講演を、少しでも日々の業務に活かせるよう精進したいと思います。

**2. 第2部 (13:00~17:30) 第2分科会 診断協会各支部による調査・研究
／地域政策提言**

第2部では、第1分科会～第3分科会の3会場に分けて、中小企業庁長官賞対象の第1分科会では、中小企業診断士による経営革新支援事例論文発表、第2分科会では、入選者による診断協会各支部による調査・研究地域政策提言、第3分科会では東京支部による研究会成果発表として支援事例や診断ツールの紹介がありました。聴衆は、自由に会場を行き来することができるため、人気のあるテーマの発表では、立ち見状態もあるなど熱心に聞いている聴衆が目立っていました。

私は、ワーク・ライフ・バランスと海外取引の拡大というテーマに惹かれ、第2分科会に参加しました。入選者ということもあり、取り組み内容が優れたものが多く、中小企業診断士の日々の活動状況をこの発表を通して見させていただくことができました。

中でも、中小企業に対して「働き方」のイノベーションとしてとらえたワーク・ライフ・バランスへの取り組みは、長期的な中小企業支援の一つに取り入れる必要性を考えさせられました。以前、大企業に対してワーク・ライフ・バランスの普及啓発活動の取り組みを行った経験がありますが、人材不足から業務に追われる中小企業にこそ有効であるもので、業務の効率化を図るうえで実践的に活用できると思います。「ヒトを大事にする経営」への取り組みの一つの手法として活用したいと思います。

また、販路拡大やコスト削減の観点から海外取引へのニーズが高まっている中で、総合商社の企業内診断士の発表者が、中小企業に対する海外取引の拡大というテーマで事例発表をされました。現状の問題点の説明が大半でしたが、今後の中小企業診断士としての役割は、連携しながら支援していく体制を持つことが非常に大切であると述べられていました。やはり中小企業の実態を把握している中小企業診断士が、支援を行う際に海外進出の可否を含めて、海外からの情報を収集する必要があり、海外進出を検討する段階から情報源となる海外経験の豊富な人材の活用や国際化に必要な基礎知識の醸成が必要であると感じました。

3. 最後に

中小企業診断協会香川県支部のおかげで、このような全国的なシンポジウムに参加させていただく機会を得、入選者の中小企業診断士の方々の支援に向けた志や活動内容から良い刺激をたくさんいただき大変感謝しております。このシンポジウムで得た情報を今後の業務に活かしていきたいと思っております。

中小企業経営診断シンポジウム参加報告



社団法人中小企業診断協会香川県支部
奥谷 義典

2010年11月17日に東京ガーデンパレス（文京区湯島）で開催された「中小企業経営診断シンポジウム」に香川支部の一員として参加しました。基調講演の後、第3部会に参加し、発表者の熱意を体感してきました。以下その概要と感想を述べます。

基調講演は『後継者は、経営者の背中を見て育つ』と題して株式会社壺番屋の創業者であり、現在特別顧問の宗次徳二氏のお話を伺いました。高松市内にもあるカレーハウスCoCo壺番屋を展開し、安定成長を遂げている企業です。

講演のキーは『立派な後継者は、経営者の背中を見て勝手に育つ』ということで、何事にも自分自身が超率先垂範し、お客様第一主義を貫くために徹底した現場主義をとるというものでした。お客様第一主義をとるということは競合相手には目もくれず、顧客を見てビジネスをするということです。確かにその通りと共感しましたが、実際問題としてその信念を貫き、社員に徹底するということは並大抵ではないと感じました。

企業を大きくできる経営者は一貫した哲学のもと、社員以上に現場実践をしているという点で共通しているように思います。また、後継者が決定すれば未練なくバトンタッチするということも優れた経営者の証なのだと感じました。

後援も終わり、昼食に行こうと小島先生、多田先生、乾先生と周りを探しましたが、昼食できる場所が少ないことに加え、時間帯がピークとあってウロウロしたあげく、コンビニのお握りで応急手当、もう少しましな場所か、弁当申し込みか考慮願いたいものです。

さて、午後は第3部会のセミナーを選択し受講しました。選択の動機は知的資産に興味があり、そのテーマが二つあったという単純な理由です。最初のテーマは『知的資産経営による企業の再生』というもので人的資産・構造資産・関係資産を見極め、競争優位を把握したうえで企業再生に役立てようというものでした。ただし、手順としてはそんなに変わったものではなく、見方、整理の問題と思いました。

第二のテーマは『買い物行動分析によるマーケティング診断』というものでグーチョキパンの顧客の買い物行動を分類し、強化すべき対象を抽出し、その対象に対して品揃え（パンの新商品）を広げていくというものでした。分類や類型化については参考になりましたが、商圈人口や経営者が中小企業診断士ということを考えると、地方ではそのまま適用はできないか、または経営者の実行意欲が出てくるかどうかを感じた次第です。

この後第3テーマを受講し、続けて第4テーマの『食品スーパーに対する知的資産経営の支援』に参加しました。練馬区の（有）アキダイで都内に4店舗展開する食品スーパーでの知的資産経営報告書の作成支援が主な内容です。これも第一テーマの切り口と同じで今後の事業拡大や経営安定化のために当該企業の強みを知的資産の観点から分類整理し、可視化することで将来の成長戦略を明確化しようとした内容でした。知的資産の3要素（人的資産・構造資産・関係資産）は見方、整理面からは役立ちそうと感じました。

中小企業経営診断シンポジウム参加報告

社団法人中小企業診断協会香川県支部

乾 京子

去る11月17日(水)、「平成22年度中小企業経営診断シンポジウム」が開催され、初参加してきました。当日は香川県支部の奥谷先生、小島先生、多田先生とご一緒に、昼休憩はコンビニのおにぎりで食事をとり、シンポジウム終了後は当日の内容を語り合っ解散と、皆様との交流も図ることができた、とても充実した1日でした。診断士稼業に入っていくつか生活の行動様式に変化がありました。その一つが昼食のとり方で、「コンビニのおにぎり」を食べるということを何度か経験しました。このコンビニのおにぎりが・・・。苦手なファストフードな生活、診断士稼業を始めたなかで残念でならない一つです。

当日は、CoCo 壺番屋の創業者、宗次徳二氏の基調講演のあと、3つの分科会に分かれ、各支部の中小企業診断士の方からの調査・研究や事例の発表と続けました。

基調講演は、宗次氏の貧しくご苦勞もあられたであろう幼少時代の実体験から事業を立ち上げ、上場させ、現在に至るまでの経緯、自身の生活習慣、後継者の育成、現在の社会貢献活動と宗次氏の生きざまが語られた内容でした。普通の人とはとても真似のできない壮絶な人生が容易に想像できました。CoCo 壺番屋の後を引き継いでいる現社長は、生え抜きの従業員の方だそうです。世間一般でいう子どもへの承継や、学力があつてどうのこうのという選び方とは違う、独自の視点で人を選んでいるわけですが、その後の同社の成長を見る限り、事業承継は成功といえると思います。宗次氏が考える優秀な後継者像というものをじっくり聞きたかったなあと思ったご講演でした。

事例発表は、初参加でもあり先輩諸氏の診断に学びたいという意欲があり(笑)、興味のある発表のつど、場所を移動し聴講させていただきました。参加した発表会の選定基準は、

①手法が学べるもの：新米がまず欲しいのは、今後に備えた「診断に使えるツール」の入手です。他の診断士の方がどのような手法等を用いて診断に当たっておられるか、その手法を参考にさせていただける内容のものを選びました。

②製造業、海外展開事例：業種等は、日頃からお付き合いのある企業に近いところという視点で選びました。

③知的資産経営：現在中小企業魅力発信レポート(中小機構)を数社担当させていただいていることから、「知的資産経営」に対する理解を深められそうなものを選びました。

参加させていただいた事例発表のご紹介と、そのなかで私が興味を持ったポイント・感想を簡単にご報告させていただきます。

13:00~13:30 “激動の時代を生き抜くものづくり中小企業”の知恵 知的資産経営調査報告書

報告の内容は、100社近くの中小製造業にアンケート調査を行い、蓄積された経営資源、特に知的資産の調査・分析を行い、中製造業の強さの源泉を明らかにし、知的資産をどのように強化・活用していくべきかについてまとめているものでした。

報告のなかにあった、元気な企業が持つ知的資産について、弱点もあるが強みもある非

REGISTERED MANAGEMENT CONSULTANT REPORT

バランス型企業が2/3を占めている点、そして、マネジメントそのものに対する支援の必要性和企業の期待があるといった点が、現在、知的資産経営のレポートをまとめているなかで私自身も感じていたことであり、非常に納得しながら聞ける内容でした。

13:50~14:30 「中堅企業K社の支援提言策」ー中小企業支援に効果的な「マトリックス図表」による企業診断の「見える化」手法の提言ー

表現の方法が二軸の掛け合わせであり、一つひとつが簡潔で非常に分かりやすい内容でした。軸の設定が定性的でユニークな切口が多く、新鮮かつ参考になりました。

15:00~15:30 食品スーパーに対する知的資産経営の支援

外部の者が知的資産経営報告書をまとめる際、会社の歴史インタビュー（創業に至るまで～創業当時～事業展開時期～現在～将来の各ビジョンの各ステージ）から知的資産経営に展開させていくのが有効との報告があり、共感しました。

15:40~16:10 中小企業の海外取引拡大のための支援について～販路開拓からパートナーシップの構築まで～

海外取引を行う際の留意点を中心にまとめられており、非常に分かりやすくかつ参考になりました。具体的には、進出目的別の要点①間接輸出・②直接輸出・③現地内販・④部品調達・⑤海外製造委託・⑥現地生産、輸出による販路拡大の事前準備、引き合い入手後の対応、などについてのご報告でした。

16:20~16:50 実践的商品開発ツール

報告の内容は、ある地方の小さな町に入り、地域活性化の視点で、地域資源を活用した商品開発支援を実施しているというものでした。一方的な見方かもしれませんが、現在このような取り組みは地方でも盛んであり、地域に根付いた企業等のほうが使命感も強く、地域資源の活用・深耕については思慮が深いのではないかと、近い将来地方発の食品産業の飛躍がありうるのではないかと、と本報告を聞きながら、地方の企業の可能性を感じていました。

以上、有益なご講演、ご報告を拝聴させていただくことができました。ありがとうございました。

新入会員自己紹介



佐竹 孝三（さたけ こうぞう）

皆様、初めまして、佐竹孝三と申します。

平成 22 年の 10 月に診断士登録し、香川支部に入会しました。どうぞよろしくお願いたします。

生まれは、香川県の丸亀市、昭和 27 年 10 月 5 日の 58 歳です。趣味は、高所恐怖症にもかかわらず、四国の山を中心とする山歩きです。それも、必死になって登山道を調べ、スケジュールを組むというわけではなく、いわれるがままに、仲間の後について行き、景色や花を愛でながら、歩くという、いたってのんきな山歩きです。先日は私だけが道を間違え、仲間の方は大騒ぎ、「佐竹がおらん、崖から落ちたんかいな」「いや仕事に悩んどったから、飛び込み自殺したんとちゃうんやろか」と好き勝手なことをいながら探していたらしいのです。たまたま、そこは、携帯電話が通じたので一件落ち着きました。このような中途半端な山登りを楽しんでおります。

私は、東京の大学（「の」が付いてますので）の工学部機械科を卒業後、地元香川の建設機械メーカーに就職しました。開発技術者になりかけたのですが、あまりにも就職試験時の専門試験が悪く、面接時に技術担当役員が、答案用紙を私の前に叩きつけながら「君！大学で何を勉強しとったんかね、話にならん！」といわれ、泣きそうになりながら、席を立とうとしたら、営業担当役員から、「一般試験はなんとかできてるやないか。まっ、営業系なら、かまんけどな、やる気ある？」といわれ、藁にもすがる気持ちで「やります！」と。入社後は海外事業部、業務部、子会社、社長室、総務部、サービス部と渡り歩き、約 30 年間勤めた後、早期退職し、現在は中小企業で管理部門の業務に従事しております。

経歴から見てもお分かりのように、経理や財務、人事の経験がありませんでした。しかし中小企業の管理部門では、例え役員であろうとも何から何までやる、プレイングマネージャーでなければなりません。このため何か勉強せんといかんなど思っていたのですが、本来怠け者で、なかなか勉強に踏み切れませんでした。たまたま、専門学校に行き、何を勉強するのが良いのか相談すると、ちょうどいいものがありますよ、と紹介してくれたのが、中小企業診断士だったのです。その時に、「経理や財務が分からなくても良いのですか？」「そなん、いらへん、ちょっと経理の基礎知識のテストするけどそれができれば充分ですわ」といわれそのテストを受けるとえらく簡単。こんな程度なんかと、高をくくって、高額な授業料を払い、その授業を受けると大違い。これは学校の罠にかかったなと思いましたが、授業料もったいないなと思ひ、腹をくくって勉強しだしたのが、55 歳の時でした。ようやく 2 年間でなんとか診断士試験をパスできました。

歳をとると本当に記憶力が悪くなると同時に、根気もなくなります。今しがた覚えたことが、「ええっと、なんやったんかいな」これが何回も続くのですから、根気がなくなるのも当然です。挙句の果ては、第一次試験の本番の時ですが、企業経営理論の問題文があまりにも長文で、わからんこと書いてるなあ～と思いつつ読んでいると、いつの間にか居眠

REGISTERED MANAGEMENT CONSULTANT REPORT

りをしてしまいました。ふっと目を覚まして、時計を見ると、残り 35 分程ある。「大丈夫、大丈夫、余裕や！」と思っていると、試験官の「後 5 分です」との声。寝ぼけて 30 分ほど時間を間違えていたわけです。当然試験に落ちましたが。その様な老いとボケにもめげずになんとか、突破できたのは、実力ではなく、受験学校の先生方の教えもさることながら運が味方してくれたようなものです。

会社の若い人たちには、どんな資格でも良いから早いうちに取りなさいとっております。60 歳近くで取得しても、それを使えるのはごく僅かな期間。私のような年寄りには、病気で何時死ぬかも分からない。若いうちであれば、頭脳は活発で、記憶力もあり、やる気さえあれば、吸収力が早い。また、それら学んだ知識やノウハウは、誰からも取られたり盗まれたりしないし、数十年は活用できる。そのうえに仕事、人脈など人生においても幅が広くなり自信がつき、投資効率や人生設計からも考えて一石二鳥や三鳥であると話しております。

将来は独立したいと考えております。独立すれば、ちょっと臺が立っている診断士となりますが、私の中小企業での経験が少しでもお役に立てばと思っております。諸先輩方のご指導、ご鞭撻が頼りでございます。何とぞ、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

新入会員自己紹介

乾 京子 (いぬい きょうこ)

平成 22 年 8 月に香川県支部に入会しました乾京子と申します。診断士は平成 22 年 5 月に登録いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

簡単に自己紹介させていただきます。私は昭和 34 年 11 月に、高知県で生まれました。中学から 6 年間女子高、その後大妻女子大学短期大学部、ビジュアルデザイン研究所を卒業後、セゾングループ勤務を経て、平成 3 年末に Uターンで高知に戻りました。その後、平成 4 年 8 月より(財)高知県政策総合研究所に勤務し、調査研究等の業務に携わりました。高知県の政策、産業振興施策を考えていくという業務のなかで、平成 5 年 9 月研究所内に任意組織である異業種の集うサロン「こうち情報倶楽部」をつくりました。中身は、企業の事業戦略につながる新事業や新しい研究開発等の情報提供、知事との意見交換などで、研究所の調査研究ともリンクさせていました。この組織の事務局を、発足時から平成 17 年 3 月研究所が廃止となるまで担当していました。研究所の廃止にともない、「情報倶楽部をどうするか」ということになったのですが、私の「続けたい」という思いを、企業経営者の方々が支持してくれて、後押ししてくれて、引き継ぐこととなり、現在に至っています。大切にすべき私のホームグラウンドです…。その勉強会も、今年の 3 月で 200 回を迎えます。この手の勉強会は続かないというのが常のようですが、20 年近く続けてこれたのはある意味、誇りかな、と思っています。通例はクローズドな会合ですが、3 月 6 日に開催する 200 回記念は、ベストセラー作家の福岡伸一氏と日経 B P 社の西沢邦浩氏をお招きし、シンポジウムを開催することにしています。200 回の節目を心に刻み、さらにグレードアップしていきたい、そんな思いで今います。

診断士を取得するに至った理由は、①研究所時代から企業の成長に関わる仕事がおもしろくてしかたなかったこと、②勉強会を引き継いだは良いが、バックがなくなったことで信用力の低下や情報量の減少が表れてきたこと、③単なる情報提供にとどまらずもっと踏み込んだところで企業の役に立ちたいと私自身が考えるようになったことが挙げられます。

資格を取った直後、中・高校の同級生の女性診断士に、「世界が変わるよ」といわれました。その時は半信半疑でしたが、確かに変わりましたし、診断士になって本当によかったなと思っています。まだ本格的な診断士業務ができていたとはいえませんが、倶楽部のメンバーからの紹介で(社)食品需給研究センターの業務「高知県食料産業の戦略構想書の策定」を受けましたし、中小機構の「中小企業魅力発信レポート」、「会計講師」などを受け、初年度にしては上出来だと感じています。人脈があることが私の強さで、その強さが生きた例かと思いますが、この 1 月には高知県のアンテナショップ「まるごと高知」の診断にも参加をすることになっています。高知県と中小企業大学校をつなぎました。

私が診断士を取得した所期の目的と最終目標は基本的に同じで、自身が関わる倶楽部メンバー企業の顧問診断士となり、企業とともに歩んでいくこと。そこを数年後の目標にすえて、今できる経験を積んでいく、という思考をしています。ぶれずにやっていきますので、皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

会員だより

社団法人中小企業診断協会香川県支部
板原 努

「今年は悪しき習慣を捨て
良い習慣を身につけます」

あけましておめでとうございます。

昨年にも公私にわたり、いろいろなことがありましたが、さて、今年はどんな1年になるのでしょうか。目先の関心事としては、政治面では、年明け早々から管政権または管内閣をめぐるさまざまな駆け引きが目を見えそうです。

また、経済面では、何と云ってもTPPへの参加問題でしょうか。焦点は農業政策かもしれません。加盟することによって安い農産物などが入ってくれば消費者としては安い食べ物を買えてメリットが大きいかもしれません。反面、国内の農家の廃業が増加し食料自給率の低下にもつながりかねません。かといってグローバル経済の下では、鎖国といった状態は決して好ましいものではありません。どちらにしても関心をもって見ていきたいと思えます。

そして社会面ですが、痛ましい事故・事件が起こらぬよう祈りたいと思います。

これら政治や経済、社会の出来事は、不謹慎かもしれませんが、私にとって変えることのできない外部環境でもあります。せめて自分自身については受身ではなく能動的に変えていきたいものです。そのひとつとして去年の12月9日から「禁煙」に取り組みました(こんなことを書いて、もし、この新年号が発行される頃、喫煙してたらと思うと……)。

今までも禁煙に何度か取り組みはしたものの、続かず挫折ばかりでしたが今日で20日目になります。永年続けてきた習慣だけに最初は非常に苦しいものがありましたが、ようやく脱出できそうです。私がとった禁煙方法は、2段階でした。1段階：決して外では吸わない・持ち歩かない、但し家ではよしとしました。これに対しては以前に比べ喫煙場所自体が制限されている所が多いことなどもあり、比較的スムーズに止めることができました。ここまででかなり量も減りました。2段階：いよいよ今度は家の中で止めることにしました。悪戦苦闘しましたが、何度か成功・失敗を繰り返しようやく今を迎えています。

今年は、公私にわたり、永続的に取り組めることを何かひとつ見つけたいと思います。また始めることができているならば、それにこしたことはありません。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



会員だより

2010年をつらつらと。

社団法人中小企業診断協会香川県支部

萱原 一則

私は広告業を生業としておりますので、時代の流れや一般生活者の行動を観察する性癖があります。会員の皆さまにとって2010年はどんな年でしたか？ 私が今年感じたことを独断と偏見で、つらつら書いてみました。

★ “海老蔵事件” と馬鹿の時代

突然ですが、皆さまは“馬鹿”の語源をご存知ですか。一般的な俗説では、秦の趙高が皇帝に鹿を「馬である」と献じた。群臣は趙高の権勢を恐れて「馬です」と答えたが、「鹿です」と答えた者は暗殺された。そして、自分の権勢を嵩に矛盾したことを押し通す人を“馬鹿”というようになったというもの。つまり「趙高=馬鹿」というものですが、実はもう一つの俗説があります。それは、保身のために「鹿を馬です」と答えた群臣、つまり、真実に反したことをいった人「群臣=馬鹿」とするものです。常に「正論」になりそうな空気を読み、「安全」な立場に立ち「正論」を振りかざす。最近、世の中そんな空気が蔓延していませんか？ 市川海老蔵さんや朝青竜。芸は下手だけど品行方正な歌舞伎役者。相撲は弱いけれど品格を備えた横綱。そんなモノには魅力を感じないし「破天荒だからこそチャーミングだ！」などといえ、たぶん世の中からバッシングされるのでしょうか。

★ “馬鹿の時代” とコミュニケーション

常に「正論」になりそうな空気を読み、「安全」な立場に立ち「正論」を振りかざす。これって何かに似ていませんか？ そうです、WEB上でのコミュニケーションです。匿名で相手を誹謗中傷する掲示板、私は正しく貴方は間違っているという応酬を繰り返すメールでの議論、追従コメントのフォローに終始するブログやツイッター。このようなコミュニケーションスタイルの変化が、一般生活者の思考や価値観に影響を与えているような気が私はします。今年のお騒がせの事件に沢尻エリカ嬢と高城剛氏の離婚騒動もありました。離婚騒動で高城氏がインタビューを受けた際にポロット漏らした本音「とにかく一度会って話し合いたい」ハイパーメディア・クリエイターがいつてしまった!?と驚愕したのは私だけでしょうか（同世代として応援してます高城さん!）。コミュニケーションの基本は「会って話し合うこと」、次が顔は見えないが声で相手を慮れる「電話」、そして、相手のことが洞察しづらい「WEB」という順番。みんながコミュニケーションの優先順位を意識するだけで、世の中の空気が少し変わるような気がしています。

そろそろこのあたりで「オマエは馬鹿じゃないのか!」「WEBのことをわかっていない!」と突っ込みが入りそうな気がしますが、お間違えなく。私は“阿呆”です。といいながら、海老蔵事件がトップニュースで取り上げられる日本は、結局平和な国でありまして、2011年が診断協会会員の皆様にとって佳き年でありますようお祈り申し上げます。

香川県支部 調査・研究事業 公開セミナーのご案内

平成 22 年度「支部調査・研究事業」の結果を広く皆さまにお知らせするため、公開セミナーを実施します。今回のテーマは、「**県内中小企業の“チャレンジ経営”**」についてです。経済状況が依然不安定な昨今、新たな顧客ニーズの開拓、新市場の創造など、果敢に取り組んでいる経営者の想いを、直接お話しいただく予定です。

なお、**一般の方の参加も大歓迎**ですので、ぜひお知り合いの方をお誘いのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

テ ー マ	「常に前へ！現状を打開するチャレンジ経営のヒント」 ～「県内中小企業の“チャレンジ経営”に関する調査・研究」より～		
講 師	有限会社井上誠耕園  代表取締役社長 井上 智博氏	有限会社庵治石彫工房  代表取締役社長 太田 明彦氏	塚田木材株式会社  専務取締役 塚田 浩之氏
内 容	香川県内で、 意欲的な取り組みに、果敢に「挑戦する中小企業」 にスポットライトをあて、さまざまな取り組みの実態、目の付けどころ、実情等について調査しました。その結果をご紹介します。		
実施日時	2011 年 2 月 26 日(土曜日) 15:00～17:00		
会 場	サンポートホール高松 63 会議室 (※ お車でお越しの場合、駐車料金はご負担ください)		
受 講 料	無料		
懇 親 会	17:15～、全日空ホテルクレメント高松 21 階「アストロ」087-811-1111 会費：4,000 円(2 時間飲み放題プラン+料理)		
お申込方法	e メールまたは F A X	お申込締切	2011 年 2 月 21 日(月曜日)
お 問 合 先	社団法人中小企業診断協会香川県支部 事務局：八木(eメール: mail@shindan-kagawa.org) 〒761-0301 高松市林町 2217-15 香川産業頭脳化センター402 号 電話：087-840-0370		



(香川県支部 事務局：八木 行) FAX：087-840-0321

【「調査・研究事業 公開セミナー」参加申込書】お申込締切：2011 年 2 月 21 日(月曜日)

ご参加者氏名	勤務先		
いずれかに○印	① セミナーのみ参加	② セミナー・懇親会ともに参加	③ 懇親会のみ参加
メールアドレス	@	携帯	() -

ご参加者氏名	勤務先		
いずれかに○印	① セミナーのみ参加	② セミナー・懇親会ともに参加	③ 懇親会のみ参加
メールアドレス	@	携帯	() -

**診断かがわ 第56号（新年号）
平成23年1月15日発行**

社団法人中小企業診断協会香川県支部

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402号

TEL 087-840-0370 FAX 087-840-0321

ホームページ：<http://www.shindan-kagawa.org/>

メールアドレス：mail1@shindan-kagawa.org

発行人	支部長	山下	益明
編集人	広報部	梅澤	秀樹
〃	〃	立川	敦史
〃	〃	小島	仁